

### ～大学院生活(2)～

こんにちは！地理の南です。前回で現代史学・二十世紀学研究室のおおよその流れを理解してもらえたと思います。今回は、この流れに乗れなかった私がどういう運命をたどっていくのかを話していきます。

前々回の最後に、大学院合格を決めた直後、友人の K・M 君(L3)に「休学、退学するかもしれない」と告げたことは紹介しましたよね。私は、“ニートになりたくない”という一心で大学院へ向かっただけの存在でしたから、これから何を研究していくか、将来はどういう道を歩いていくのか、などのビジョンがまったくなく、一旦休学した方がいいのではないかと考えたからです。その延長線上に退学もあったわけです。しかし、K・M 君に説得されて、とりあえず休学せずに普通の修士1年生を送ることになりました。

まずやらなければならなかったことは、研究テーマの決定です。院試に合格した直後に N 教授の部屋を訪れた時、「君の卒論での研究テーマは十分研究されつくしているの、別なテーマを考えないと院では厳しいよ」と言われていました。このテーマ選びで私は重大なミスを犯してしまいます。私はずっと教授を避けていた部分があるし、何も相談したこともないし、研究のあり方自体を分かっていなかったのです。“新たな論の構築や発見ではなく、既存研究の穴を埋める”という一般的な書き方を知らなかったのです。卒論は適当にうまくやれていただけで、このテーマ選びで私は基礎がしっかりしていなかったことに最後の最後で気づくのです。時すでに遅し、だったわけですが…。

話を戻して研究テーマですね。実は、院試に合格した時に私を少し褒めてくれていた O・N 君に、『虹色のトロツキー』という漫画を薦められて読んだことがありました。舞台は 15 年戦争中の満州です。満州には匪賊と呼ばれる、日本人に反抗する現地人集団がありました。この匪賊の中で、死んだと思われていたトロツキーがなぜか満州で命をつなぎ、日

本人への反抗活動を指導していた、ということを描いた先鋭的、画期的な漫画です。この漫画を読んで、もともと石原莞爾の作ったであろう満州帝国に興味があった私は、さらに満州にぞっこんとなり、「満州における匪賊の抗日活動」を研究テーマにすることを 4 月ぐらいに決めました。まったく N 教授に相談することなくです。で、満州の研究には中国語・韓国語・モンゴル語・ロシア語の言語に精通していないとどうにもなりません。他の大学は知りませんが、京大は資料第一主義なのです。そうそう思い出しました、2 年生の基礎ゼミの最初の発表は E・H・カーの『歴史とは何か』というテーマでした。趣旨は歴史研究の基本は原典にありつてところでしょう。海外の研究者が著した著作を日本人の翻訳した書物で読んだとしても、翻訳家の思想が少し入ってしまうので、本当の研究には使えない。だからこそ、海外の人の原著、もちろん、その人の使用している言語で読むべきだという精神が強固としてあります。だから文学部では英書講読、中書講読などの語学の単位が必要になるわけですよ。

私は中国語に関しては、3 年生のときの留学経験、その後の HSK 対策をしっかりと行ったことによって自信がありました。韓国語に関しては、やっていける自信はありました。4 年生の終わりに卒業旅行で香港を訪れた際、私は香港映画、もしくは中国映画を見ようと思って映画館に行きました。タイトルは全部繁体字(漢字がややこしいバージョン)でどんな映画かまったくわからなかったのですが、「愛的四肢」って書いてある映画を見ることにしました。でも、始まった途端後悔しました。だって韓国俳優による韓国語でお送りされる超純然韓国映画だったのです(邦題『カル』)。字幕スーパーも繁体字ですぐに消えていくのでどんな話か皆目見当が付きません。でも、何か韓国語の響きにどんどん引き込まれていったのです。特に女優のシム・ウナが発する「アニョ」が良かったのです。たぶん、「いいえ」なんだろうとは思いましたが、何度でも聞きたいと思いまし

# 強者の戦略

た。さらに、“自分の口から韓国語が飛び出して来ればどれほど素晴らしいだろうか”と考えて、香港から帰った日に韓国語の参考書を購入し、3日でハングル文字の概要と簡単なフレーズは覚えました。「イゴシ、イゴスン、イゴスル、イゴット…」とか口に出して発言していけばすぐに覚えられますよ！なので、韓国語はきっと大丈夫です。問題はモンゴル語ですよ〜。一応文学部で開講されていたモンゴル語の授業に出つつ、8000円ぐらいするモンゴル語の参考書も購入して、ちびちび勉強を始めました。

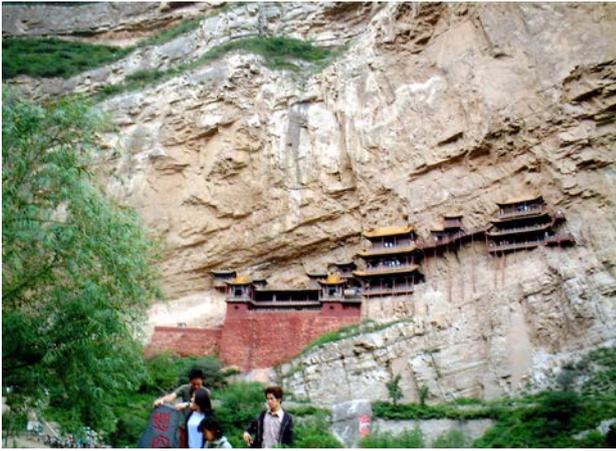
こうして、4月からの私の勉強は中国語・韓国語・モンゴル語・ロシア語の勉強を続けながら、満州に関する参考文献を読み漁る日々が続きます。好きなことをやれているのでこの時期はすごく楽しかったと思います。ただ、6月ごろになってくると、不安が高まってきます。修士2年生の最後にはそれなりの論文に仕上げなければならないのに、語学の勉強でこんなに時間がかかっているならば、成し遂げられないのではないのかと思うようになりました。また、誰も研究していないテーマにしようと考えて満州の匪賊を選んだので先行研究がほとんどなかったのです。自分の発表は11月でしたが、それまでにうまくまとまる気がしなくなりました。この時ぐらいいから、やっぱり休学しておいた方が良かったんじゃないかと後悔します。そして、きっとこのまま退学するかもなーと思ってきたので、“ちょっとやりたいことをやっておくか！”ってな感じで、8月に2度目の中国留学に行きます。前回は北京大学(ペーダー)でしたが、今回は北京師範大学(ペイシーダー)です。今回は、クラス分けテストの結果最上位のクラスに入ります。しかも、クラスみんながもっとレベルの高いことをやってほしいという意見にまとまり、一段上のクラスを作ってもらってそこにも入れました。それはそれは充実の語学力があったわけですよ(笑)。午前の語学の授業、午後の課外活動などが終わって夕方からは満州に関する参考文献は読み続けましたよ。そして、9月に入ると中国を放浪し始め

ます。言い忘れていましたが、この留学の時は、船で中国に向かいました。いろんなことを満喫しまくってやろうと考えてのことです。大阪南港から蘇州号2泊3日の旅で上海へ到着、上海で1日過ごした後夜行列車(硬座)で北京へ向かいます。この硬座は大変ですよ〜。がっちり90度の角度で固定された椅子に8時間ぐらいい座り続けないと行けないのです。高い値段の軟座や硬臥などでも良かったのですが、一番ハードな旅を経験したかったのです。で、北京に着いてからは留學生活を送り、9月の27日ぐらいいの上海発大阪行の蘇州号で帰ることになっていました。約1か月の放浪期間があった感じです。北京→洛陽→鄭州→南京→上海(蘇州・杭州)と周遊しました。最後の上海では日本から蘇州号でやってきたO・N君とS君とも合流して、3人で遊びまわりました。帰りの船でも、傾く船体に足を取られながらも卓球をして盛り上がり、急に参戦してきた中国人にも勝利して、かなりいい思い出になりました。



言わずと知れた万里の長城

# 強者の戦略



大同の懸空寺



実際の少林寺(鄭州)



洛陽の大仏(前のおばちゃんがポイント！)



少林寺ポーズをきめてくれている人物



洛陽の大仏(遠景)



少林サッカー主演の周潤發の弟さん(右)  
南京に英語教師の検定試験を受けに行く女性(左)

# 強者の戦略



どこかのお寺の寝ている大仏



蘇州の水のある風景



南京大虐殺記念館前でうなだれるO・N君



上海の南京路

さて時は流れて 10 月です。8～9月にいろいろと参考文献を漁りましたが、論を組み立てられる気配がまったくありませんでした。それもそうですよ、満州の研究ならいくらかもされているから、先行研究の穴を突くことはできると思いますが、匪賊は何も研究されていないので、何を論ずればいいのかさっぱりです。4月の方向性が間違っていたということです。ということで、K教授に言いに行くことにしました、「発表はできない」と。院試の後の挨拶以来久しぶりに K 教授の部屋を訪れ(ノックをして入るときの緊張感は半端ないよ!)、話しました。

南:「いろいろ先行研究を読んだのですが、うまく研究に結び付けられそうにありません。11月の発表を辞退させてください」

K 教授:「言語道断だな。修士はしっかり研究をしてその成果を年1回発表することで、責務を果たしているんだよ。君は何をしているんだい。発表を辞退するなんて今までになかったことだよ。何とか発表できないのかい?」

南:「無理だと思います。このまま2年生になることもできないので、来年は休学してテーマの再検討に当たります。すいませんでした。」

K 教授:「仕方がない。分かった。次回のゼミでそのことをみんなに伝えよう。君のせいで、12月の

# 強者の戦略

発表者は発表する日が1週間早まることになるんだよ。そこをちゃんと分かっておきなさい」

ということになりました。12月のゼミの居心地は最悪でした…。

1月はレポートをいくつか提出し、文学部の受付に休学届も出しました。京大のいいところは休学中に学費はかからないということですね。休学中にしっかりお金を稼いでおけば、来年復学した時に経済的に楽になって研究に邁進できます。休学中は満州や現代史に関する参考文献に当たりながら、それだけでは視野が広がらないので、経済学部、法学部、文学部の歴史の授業も受講しました。なかなか面白いもので、休学したときに限って真面目に授業に出るんですよ。まあ、ほとんど文学部以外ですけど。たまに韓国に行ったりもしましたが、基本的にはアルバイトでお金を稼ぎながら、せっせと現代史学的な勉強もし、図書館で疲れてきたら友人と話したりご飯を食べる毎日が続きます。すると、意外に友人も同じような悩みを抱えていることに気づきます。休学はしていないけど、修士を3年かかりそうな人が出てきます。“このままで修士論文提出しても博士課程には行けそうにないから、もっと研究して3年生で修士論文を書こうと思っている”という意見や、“やっぱり就職活動した方が良かったかな。俺、院に向いてないわ”なんていう意見も聞こえてきます。すごく心強かったです。自分だけ悩んでいるわけじゃないとわかることは素敵です。

11月になると、ついに吹っ切れました。自分は研究者には向いていない、就職しようと思い始めました。普通の企業に行くのも面白くないので、NHKやメディア関係に就職し、ハードワークに疲れてきたときに予備校講師にでもなろう、無理なら教職免許を活かして学校の先生になればいいさと決めます。修士を出れば教職免許のレベルが上がって、教頭先生ぐらいまでなれるんですよ(笑)。このことを、ま

ずN教授に言いに行くと、「よかったよかった。君は研究よりそっちに向いていると思うよ」と安心されます。研究に向いてないんかちょっといらつとしつつも、K教授にも言いに行きます。K教授も「君の将来は君のものだからね。その選択でいいと思うよ。でもきっちり修士論文は仕上げるんだよ」と言ってくれました。ようやく一歩前に進んだ瞬間です。修士論文のテーマは相変わらずさっぱり何の形も見えませんでした。とりあえず就職活動を始めることとなります。

では次回は就職活動について話していきましょう。